

2019年10月29日

沖縄県知事 玉城デニー様

大浦湾チリビシのアオサンゴ群集について
沖縄県による天然記念物指定を求める要望書

公益財団法人 日本自然保護協会
理事長 亀山 章
ジュゴンの里
代表 東恩納 琢磨

私たちは辺野古・大浦湾の生物多様性豊かな自然環境の保全に長期にわたり取り組んできました。このたび、米国 NGO ミッションブルーにより辺野古・大浦湾一帯がホープスポット (Hope Spot : 希望の海) に認定されました。対象範囲は、辺野古・大浦湾を中心にした天仁屋から松田までの 44.5 平方キロメートルの海域です。認定のポイントの 1 つが世界的にも貴重で普遍的な価値を持つチリビシのアオサンゴ群集であったことを踏まえて、改めてチリビシのアオサンゴ群集の天然記念物指定を要望いたします。

2007年9月に発見された名護市大浦湾のチリビシのアオサンゴ群集は、長さ 50 メートル、幅 30 メートル、高さ 14 メートルに達するもので、単一の種からなるサンゴ群集がこのような規模になるのはこれまで報告例がなく、大変貴重なものです。

滝野ら (2008) の研究によると、チリビシのアオサンゴ群集の遺伝子型と石垣島・白保のアオサンゴ群集の遺伝子型は異なり、またこの群集は全体が同じ遺伝子型であり、性別が雄である (山城、2015) ということが明らかになりました。2017年12月には新たに、最新の遺伝子解析の結果が判明し、同群集は勝連半島のアオサンゴ群集と異なる遺伝子型であることがわかりました。同じ沖縄島周辺に位置する勝連半島のアオサンゴ群集とも遺伝子型が異なるということは、大浦湾に存在するものがかけがえのない唯一無二のものであることが示唆されます。

2016年以降、夏になると気候変動の影響で、サンゴの白化が広範囲に起こり、大浦湾一帯のサンゴ群集は大きな影響を受けました。チリビシのアオサンゴ群集も白化しましたが、秋には無事にもとの状態に戻りました。しかし同じ海域で大規模な工事が進み気候変動も激しくなるなか、いつまでも健全な状態を保てる保証はありません。

唯一無二のこのアオサンゴを天然記念物として保全していくことは、将来的に観光資源としても有益であり、辺野古・大浦湾一帯の特性を全国にアピールすることにもなります。天然記念物として早期に積極的に保護し、次世代へ引き継ぐことを要望いたします。

<参考資料>

「沖縄島・大浦湾におけるアオサンゴ群集 合同調査レポート（速報）～生物多様性豊かな辺野古・大浦湾の海～」 日本自然保護協会・WWF ジャパン・国士舘大学地理学研究室・沖縄リーフチェック研究会・じゅごんの里、2008年7月発行

「Verdant seas」 The Daily Yomiuri.2008年7月22日

「大浦湾生き物マッププロジェクト報告書」. 沖縄リーフチェック研究会.2009年3月5日発行

「辺野古・大浦湾 アオサンゴの海 生物多様性が豊かな理由 ―合同調査でわかったこと―」.日本自然保護協会・WWF ジャパン.2009年4月発行

「特集 大浦湾の海 大浦湾を識る」月刊『地図中心』通巻442号財団法人日本地図センター、2009年7月10日発行

滝野 功ら(2008)「石垣島東海岸と本島大浦湾におけるアオサンゴ群集の地形的・遺伝的特性の把握」. 第10回日本サンゴ礁学会講演要旨集 p92

Yasuda et al (2012).Large-scale mono-clonal structure in the north peripheral population of blue coral, *Heliopora coerulea*. Marine Genomics.

Yasuda et al (2014). Genetic structure and cryptic speciation in the threatened reef-building coral *Heliopora coerulea* along Kuroshio Current. Bulletin of Marine Science.

山城秀之(2015)名護市大浦湾のアオサンゴ群落の保全に向けた生殖等の基礎調査.pro natura ニュース. No25.p7.公益財団法人自然保護助成基金.

希少アオサンゴ確認.琉球新報.2017年12月7日

別種のアオサンゴか.東京新聞.2017年12月17日

辺野古アオサンゴ、「遺伝的に独立」日本自然保護協会など、保護訴え.2018年1月22日.朝日デジタル